

令和2年度第3回 平塚市環境審議会の概要

日 時 令和3年3月18日（木） 10時00分から12時00分まで

場 所 平塚市青少年会館 集会室

出席者 大岩委員、小林（正治）委員、山本委員、秋山委員、阿久井委員、田中委員
小林（勤）委員、柳田委員、柳川委員、小倉委員、室田委員、堀委員、坂本委員
〈事務局〉環境部長、環境政策課長ほか

議 題

- (1) 平塚市環境基本計画令和2年度上半期実施状況等について
- (2) 平塚市地球温暖化対策実行計画に基づく二酸化炭素排出量推計について
- (3) 平塚市環境基本計画の中間見直しについて

1 開会

2 議題

○会長

議事に入る前に、前回審議会での質問に対する回答の説明を。

◇事務局

「資料1 建築資材置き場の資材の積み上げ等、作業時に発生する音の規制」について説明。

○会長

事務局からの説明についてご意見、ご質問があれば。

○委員

現在も行われていて困っている人もいるため、民間業者と協議していかなければならないと感じる。

○会長

その他はないか。

○各委員

（意見なし）

- (1) 平塚市環境基本計画令和2年度上半期実施状況等について

○会長

議題（1）「平塚市環境基本計画令和2年度上半期実施状況等」について事務局から説明を。

◇事務局

「資料2 平塚市環境基本計画令和2年度上半期実施状況等報告書」により説明。

○会長

事務局からの説明についてご意見、ご質問があれば。

○委員

施策ナンバー5について上半期対象としている件数はそもそも少なかったのか。神奈川県も緊急事態宣言中の立入調査は控えていたが、6月以降は実施していた。

◇事務局

上半期に予定していた件数自体は少なかった。

○委員

平塚市ではツインシティでの再生可能エネルギーの普及や波力発電の推進など、再生可能エネルギーについて取り組んでいるが、市域においてはどれくらい普及しているのか。また、市民への周知としてはどのようなものがされているのか。

◇事務局

電力自由化によって、電力会社を選択できるようになった。その結果、国全体としての再生可能エネルギー率は把握でき、各電力会社の再生可能エネルギー率も把握できるものの、その電力がどれだけ市域に供給されているかは、情報が開示されていないため把握することができない。また、平塚市域において、再生可能エネルギーの発電設備が設置されているかは、資源エネルギー庁のデータから把握できるが、設置許可のみで実際に稼働しているかまでは把握できない。

加えて、環境省に設置されている中央環境審議会でも電力会社の供給量の開示について議論されている。

○委員

波力発電所について、今後どのような計画が立てられているのか。

◇事務局

詳細については、産業振興課に確認させていただきたい。ただし、今年度限りの事業であったものの、令和3年度の一年間は延長することのこと。

○会長

電力会社の再生可能エネルギー率はすべて開示されているのか。

◇事務局

平塚市が管理している公共施設では電力契約時の業者選定にあたって、各電力会社の再生可能エネルギー率を把握しているが、市域全体となると把握できない。

○会長

把握している各電力会社の再生可能エネルギー率のうち、少なくとも一番低いところの数値分は平塚市域に割合としてあるのか。

◇事務局

平塚市として調達している新電力会社からの電力の再生可能エネルギー率が低いところは把握できる。ただし再生可能エネルギーは、未利用エネルギーの数値も含まれている。

○委員

防犯街路灯のLEDについては、いつ頃終了する予定か。また、LED化による省エネ（節電）はどのくらいできているのか。

◇事務局

防犯街路灯はほぼ終了している。節電効果については詳細を確認し、後日回答させていただく。

○会長

その他はないか。

○各委員

(意見なし)

(2) 平塚市地球温暖化対策実行計画に基づく二酸化炭素排出量推計について

○会長

議題(2)「平塚市地球温暖化対策実行計画に基づく二酸化炭素排出量推計」について事務局から説明を。

◇事務局

「資料3 平塚市地球温暖化対策実行計画に基づく二酸化炭素排出量推計」により説明。

○会長

事務局からの説明についてご意見、ご質問があれば。

○委員

産業部門について、平成25年度と比較すると平成30年度は増加しているが要因はあるのか。また、目標達成を考えると厳しいように思うが、市としてなにか企業に指導などはするのか。

◇事務局

産業部門については、輸出等が好調であると、経済活動も活発になり、二酸化炭素排出量も増加することになる。そのことが原因のひとつであると考えられる。平成25年比では増加しているものの、近年では省エネ効果などにより減少している。なお、指導等は現時点では考えていない。

○委員

各電力会社の再生可能エネルギー率が把握できないのに、なぜ平塚市域の二酸化炭素排出量は推計できるのか。推計には電気も影響していると思うが。

◇事務局

推計値の算出にあたり、各電力会社の再生可能エネルギー率は用いていない。

また、推計における電力の二酸化炭素排出係数は東京電力の数値を用いている。他にも、例えば石油製品を製造する際の排出係数なども使用している。

○委員

目標値を具体的な数値ではなく、基準年度に対する削減割合である理由はなにか。

◇事務局

平塚市の目標値は、国の中期目標(2030年度)までの目標値を参考に、平塚市環境基本計画の最終年度である2026年までの目標を設定している。見直しの是非等については、次の議題にて回答させていただく。

○委員

今年度は新型コロナウイルス蔓延により、経済活動は低下していると予測されるが、どれくらい落ちているのか。経済活動はそのまま、二酸化炭素排出が削減できたということが、本来の意味での削減ではないか。また、経済活動の低下による削減の場合、補正などはあるのか。

◇事務局

今年度の推計は、低下していることは予想できるが、根拠となる数値がないためはっきりとはわからない。平塚市として電力契約をしている公共施設では電力使用量は下がっている。また、補正に関して、推計値の計算は国が示すガイドラインによって算出しているため、注視する必要がある。

○会長

その他はないか。

○各委員

(意見なし)

(3) 平塚市環境基本計画の中間見直しについて

○会長

議題(3)「平塚市環境基本計画の中間見直し」について事務局から説明を。

◇事務局

「資料4 平塚市環境基本計画の中間見直しについて」により説明。

○会長

事務局からの説明についてご意見、ご質問があれば。

○委員

気候変動や脱炭素など、国の方針が大きく変化しているため、重点課題となる。また、直近では「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案」が閣議決定されたことで、処理の運用が変更されることが想定されるため、そのことも記載してはどうか。

○委員

新型コロナウイルスなどにより、イベントが実施できないような場合、進捗管理ができないのではないかと。そのため、リモートの推進やイベント開催などは新しい生活様式に合わせたものとするような記載は想定しているのか。

◇事務局

ご指摘のとおりで、社会情勢に合わせた形で、事業実施を考えていかなければならない。担当課が詳細を検討することになるが、計画全体ではなく、後期事業計画の個別の施策の中で、そのようなことが検討されるようにする予定である。

○会長

主に、参加者を集めてのイベントは教育啓蒙活動となる。リモートでもある程度のことは実施できるが、手で触れるなど実体験を通して学ぶことがあるので、工夫が必要である。

○会長

「(1) 気候変動適応策」については、気温上昇により作物や果樹などに影響が生じることになるのか。

◇事務局

そのとおりである。今までは、地球温暖化による気候変動に対しては「緩和」策を実施してきたが、今後は、温暖化により顕在化している課題に対して「適応」する対応策を実施していかなければならない。例えば、作物や果樹のほか、熱中症などの暑熱、豪雨による洪水などが挙げられるが、それらへの適応方法について関係課と調整し、盛り込んでい

きたいと考えている。ただし、具体的な方法については、担当部局が個別に対応していくことになる。

○会長

数値目標はあるか。

◇事務局

これからの課題とさせていただきたい。

○会長

それでは、「(1) 気候変動適応策」については、このような内容を盛り込んでいくということによいか。

○各委員

(意見なし)

○委員

平塚市議会で、ゼロカーボンシティについて発言があったとのことだが、どこが主導していくのか。事務局である環境政策課が主導してほしいが。

◇事務局

環境部局としてはゼロカーボンシティについて、見直し時に盛り込んでいき、前向きな姿勢を示していきたいと考えている。そのため、平塚市環境審議会での議論や関係部局などと調整を進めていきたい。

○会長

順番が前後するが、「(3) ゼロカーボンシティ宣言」については、このような内容を盛り込んでいくということによいか。

○各委員

(意見なし)

○会長

「(2) 二酸化炭素排出量削減目標」については、国に合わせて変えていくということか。

◇事務局

国の2050年までに80%削減は長期目標であり、2030年までの26%削減は中期目標である。本市の目標は、国の中期目標に合わせて、計画年度の最終年である2026年での削減目標を設定している。そのため、国が中期目標を変更する可能性があり、その場合、本市の目標も変更しなければならないではないかと考える。

○会長

カーボンニュートラルとする場合、削減率が高くなるが。

◇事務局

そのとおりである。二酸化炭素排出量削減とともに、イノベーション（技術革新）も進めなければ厳しい。

○会長

各都道府県による排出権取引などはできないのか。

◇事務局

他の自治体では、そのようなことを検討しているので、可能ではあると考えるが、平塚市では具体的な検討はされていない。

○会長

「(2) 二酸化炭素排出量削減目標」については、このような内容を盛り込んでいくという事でよいか。

○各委員

(意見なし)

○会長

「(4) 生物多様性の保全」については、ご意見、ご質問があれば。

◇事務局

生物多様性アクションプランが令和3年度中には一定程度まとめられるとのことなので、方向性などを計画に盛り込んでいきたい。

○会長

「(4) 生物多様性の保全」については、このような内容を盛り込んでいくという事でよいか。

○各委員

(意見なし)

○会長

SDGsのマークについても使用していただきたい。

◇事務局

使用していきたいと考えている。

○会長

そのほか、全体としてご意見はあるか。

○各委員

(意見なし)

3 その他

この第3回平塚市環境審議が、現委員の最後となることから、各委員から一言。

4 閉会

以上